



雌獅子・雄獅子・中獅子の三匹の獅子が雄獅子を間にして、取り合い、乱舞する一人立ちの獅子舞です。
千葉県の無形文化財に指定されていましたが、残念ながら今では伝承する人がいなくなり、行われていません。

青 亮子 「小室の獅子舞」



阿部幹子 「寒い朝」



東京谷中を散策する、昔遊んだ懐かしい物、昭和の街並み。

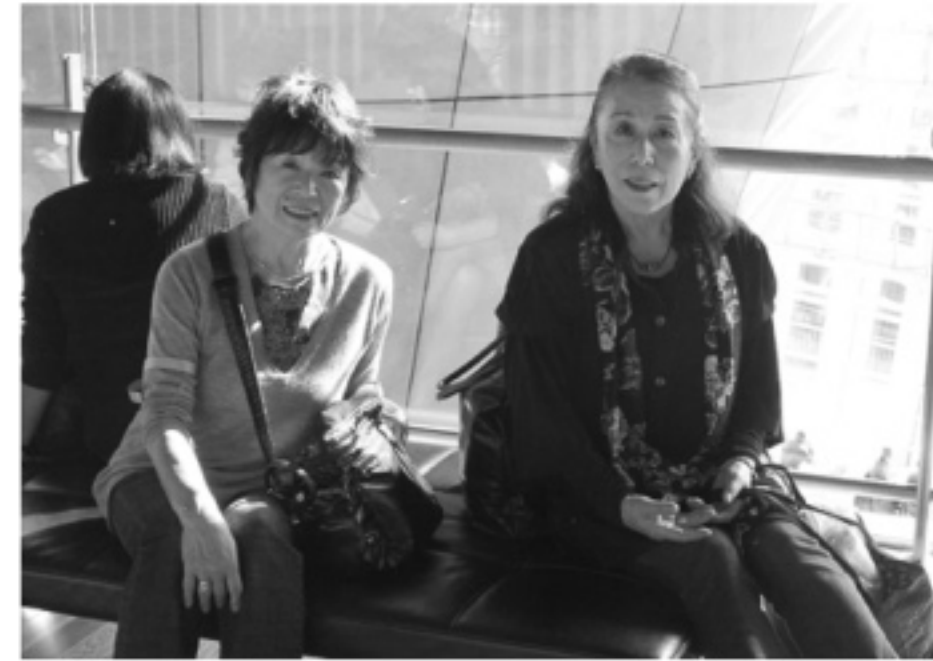
安藤保男 「時代おくれ」



岩田敦子 「リズム（和紙含む）」

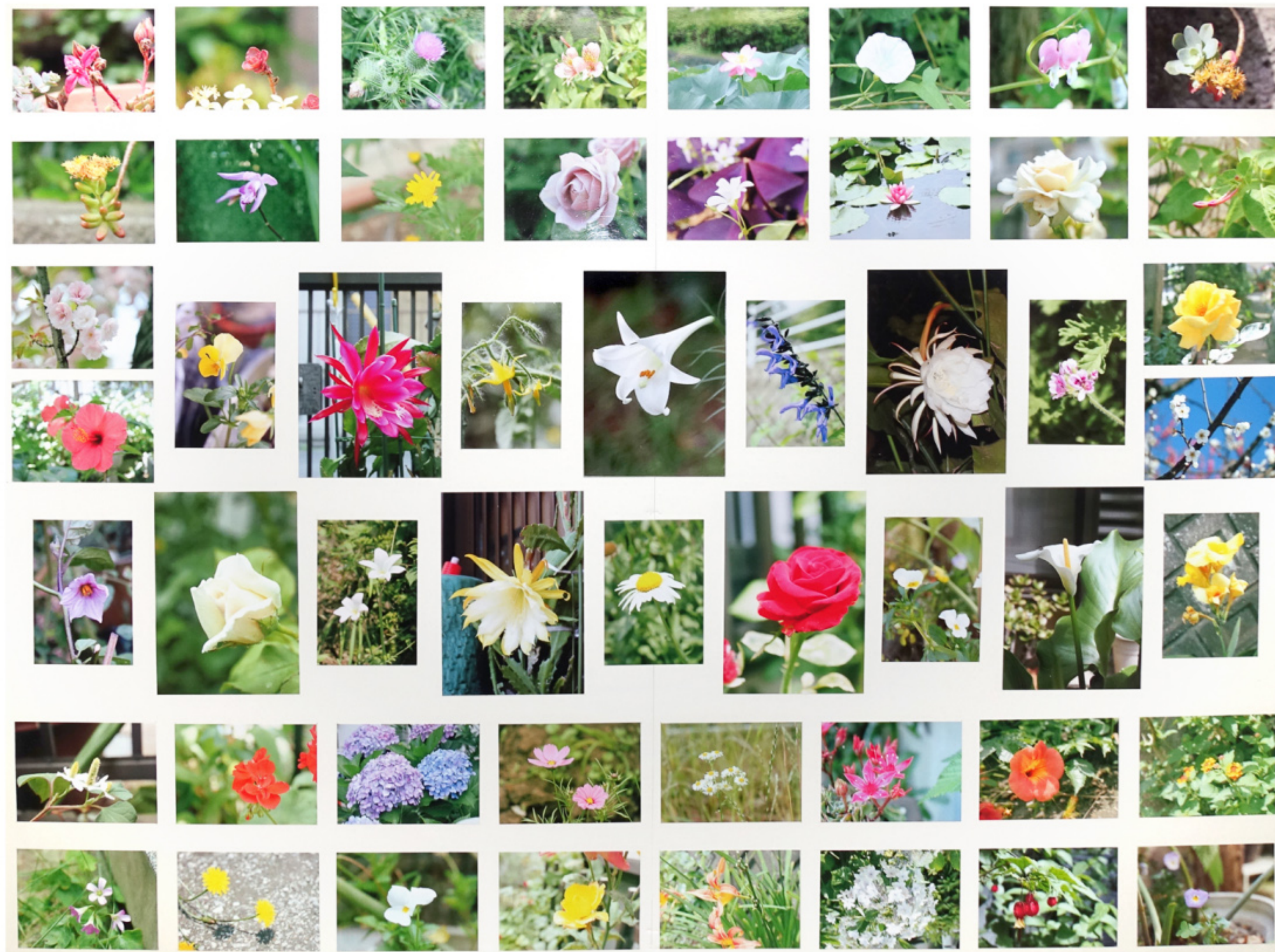


大川佐多子 「里山の六月」



フォトハイク、散歩しながら写真を撮ることを始めて7年になる。昔は白黒フィルムを使ったが、今はデジタルカメラでカラー写真をモノクロに変換している。フィルムカメラのファインダーはカラーであったが、今では、撮影モードをモノクロに設定すればファインダーもモノクロになる。

海保 功「フォトハイク2017 ～モノクロームを楽しむ～」



加藤 勇 「ざつ美」



加藤久雄 「ぬるい日はじたばたする」



紙谷友幸 「冬枯の時季」



台東区 三社祭り大行列 港区 品川宿場まつり 花魁道中 江東区 深川富岡八幡祭り 佐倉市 麻賀多神社 秋祭り
一ノ宮町 上総国1 一之宮玉前神社 匝瑳市 八重垣神社 祇園祭 久喜市 提燈祭り「天王様」

岩槻区 街かど雛めぐり 八雲神社

神田潔司 「祭と女性と女の子」



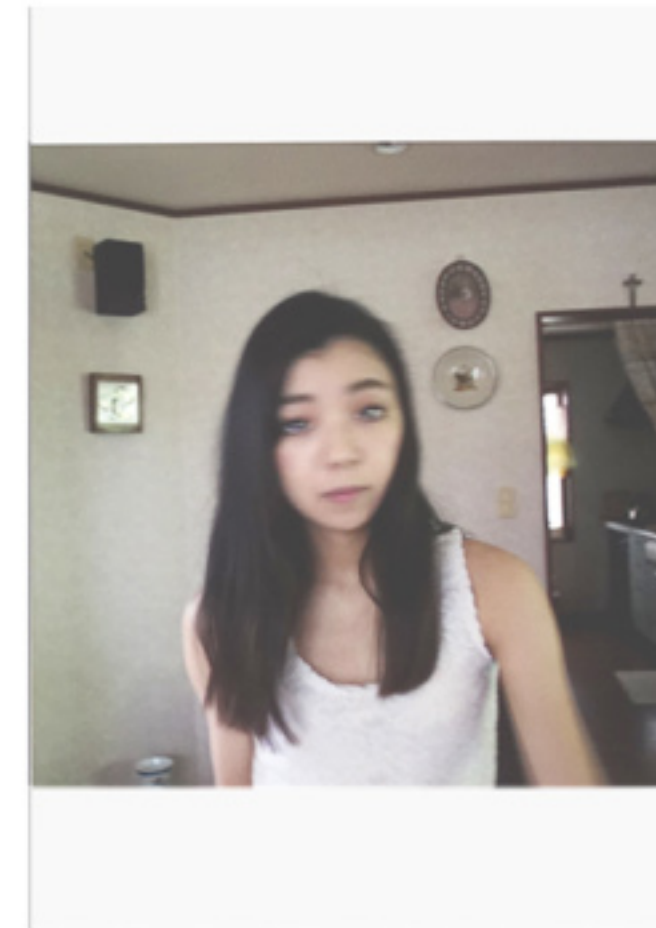
長女夫妻が我が家の裏庭に家を建て新しい生活が始まった。それでも私の両親が汗して世話した畑や、植物、生き物たちは遅しく命を繋いでいる。私も変わらず土と雲を見ながら写真を撮り続けている。

木村ハル 「カメとヒコーキ」

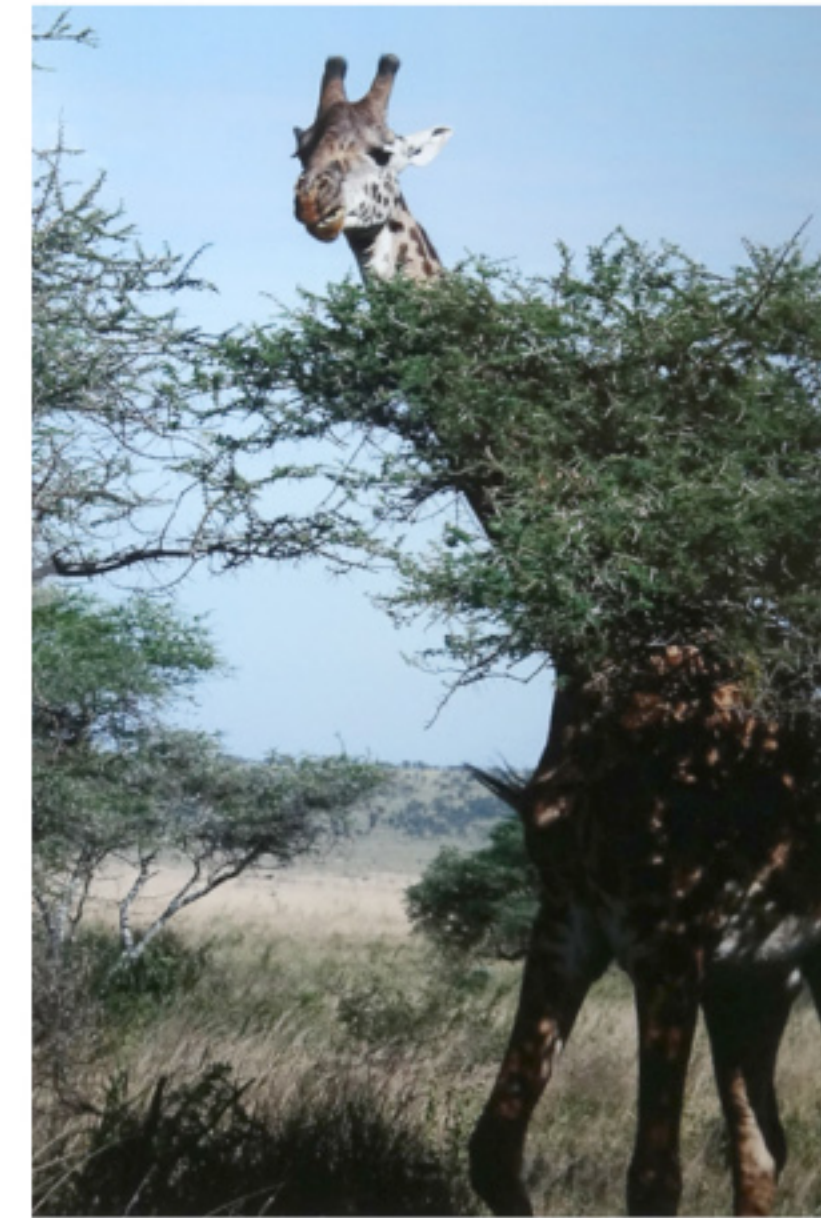
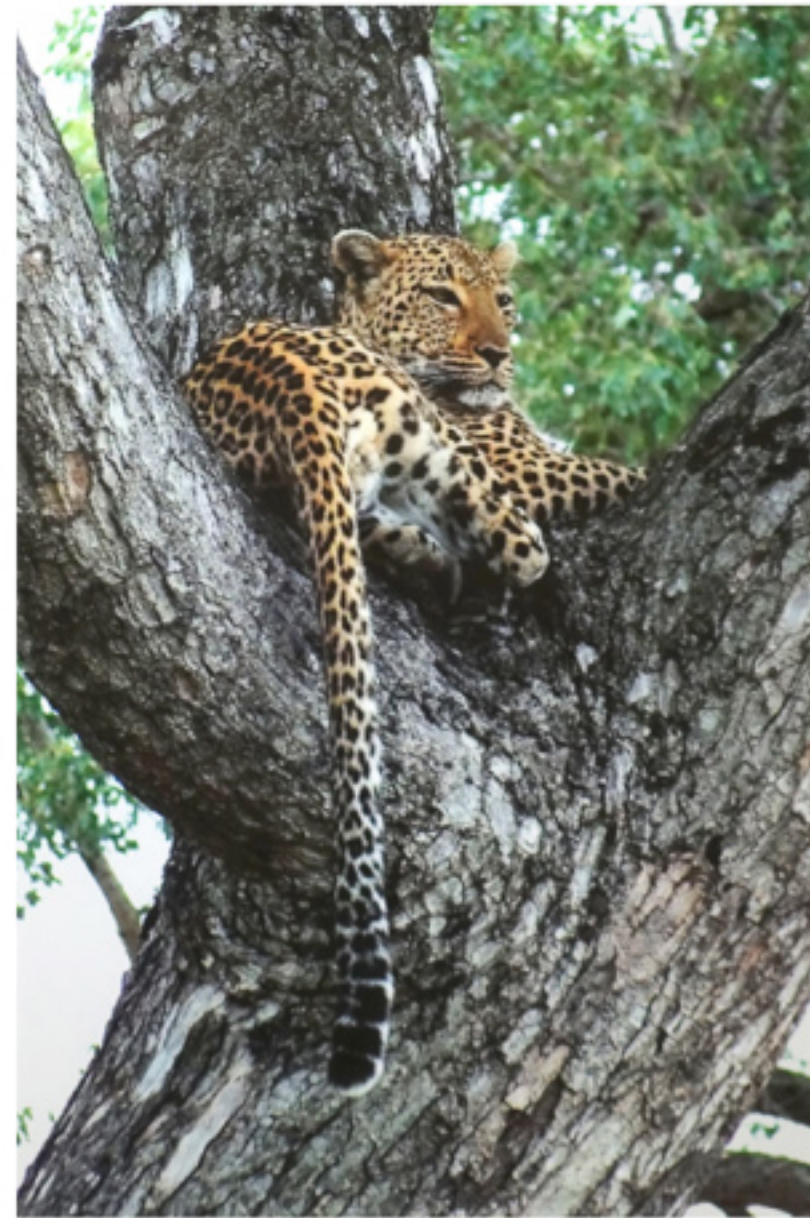


デジタル写真のこの時代、100年後も同じ画像を見ることになる。劣化しないことは良い事ではあるが、経年変化による写真の味わいを楽しむことができない。仮に、100年前に戻る事が出来れば・・・そんな味わいを楽しんでください。

釘宮和博 「100年－時間旅行 櫻の木の下で」

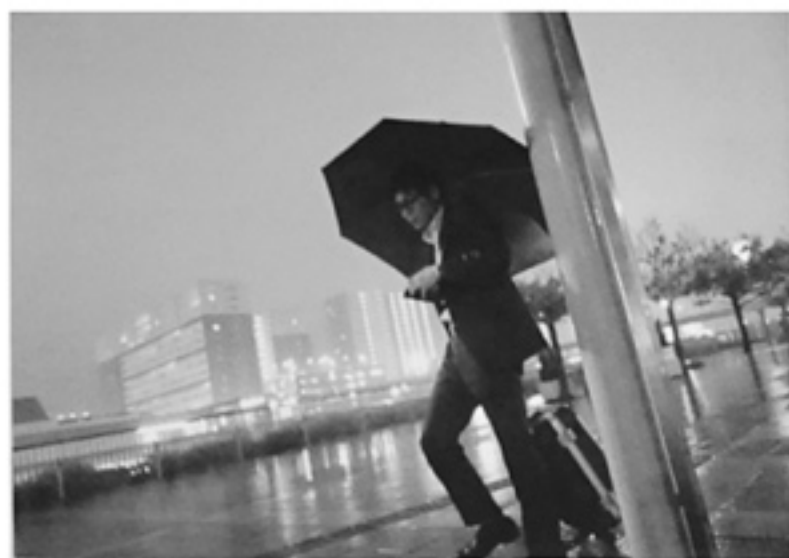


久保田マリア 「葱と老犬」

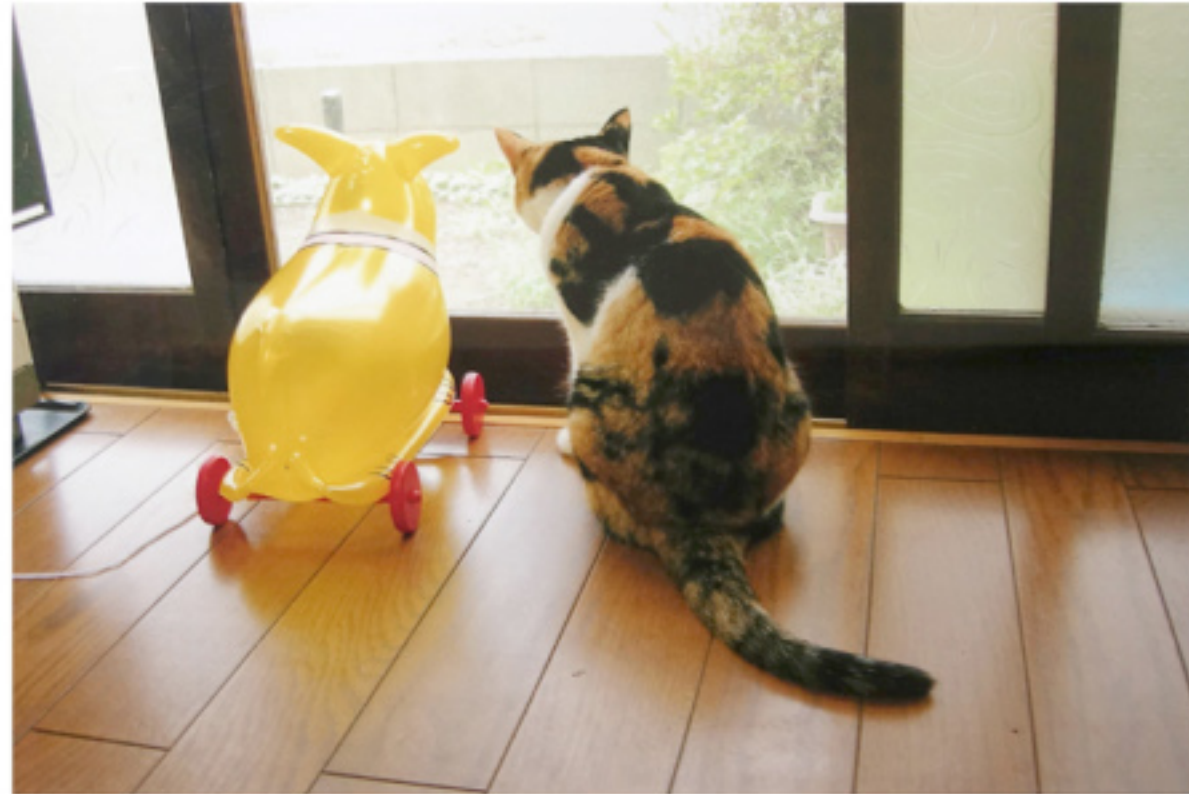


撮影地 南アフリカクルーガー 木に登るライオンもあります。イエロービルさい鳥 南アフリカに住むさい鳥の仲間

黒田千恵子 「サバンナに生きる」



近藤雅明 「雨、、、」



サッチー 14年間ありがとう

近藤春子 「わが家にて」



カメラは Canon Power shot S3IS 600万画素 本体にコンバージョンレンズアダプタを取付け赤外線フィルターを付けたものです
デジタルカメラでこの型にしたものは唯一の機でしょうか 赤外線は肉眼では捉えられない世界を覗かせてくれます

作田龍顕 「ふしぎなけしき」



佐藤啓三 「田舎暮らし ing」



佐藤弓子 「こどもの日」



佐藤 昭 「鉄塔」



1990年10月、一緒に旅行した仲間があちらへ旅立ちました。仲間の為にその時（27年前）撮影したボジをDPして追悼作品としました。少々退色してしまいましたがこの展示を喜んでくれている事でしょう。

佐藤則子 「遙かな尾瀬」



塩澤由紀「螺旋」



2017年4月1日をもって避難指示が解除された福島浪江地区と富岡地区。 国と東電はこの地に帰れという。

しまくらまさし 「6年目のフクシマ ～避難指示解除区域の今～」



清水朗子 「変わらないもの」



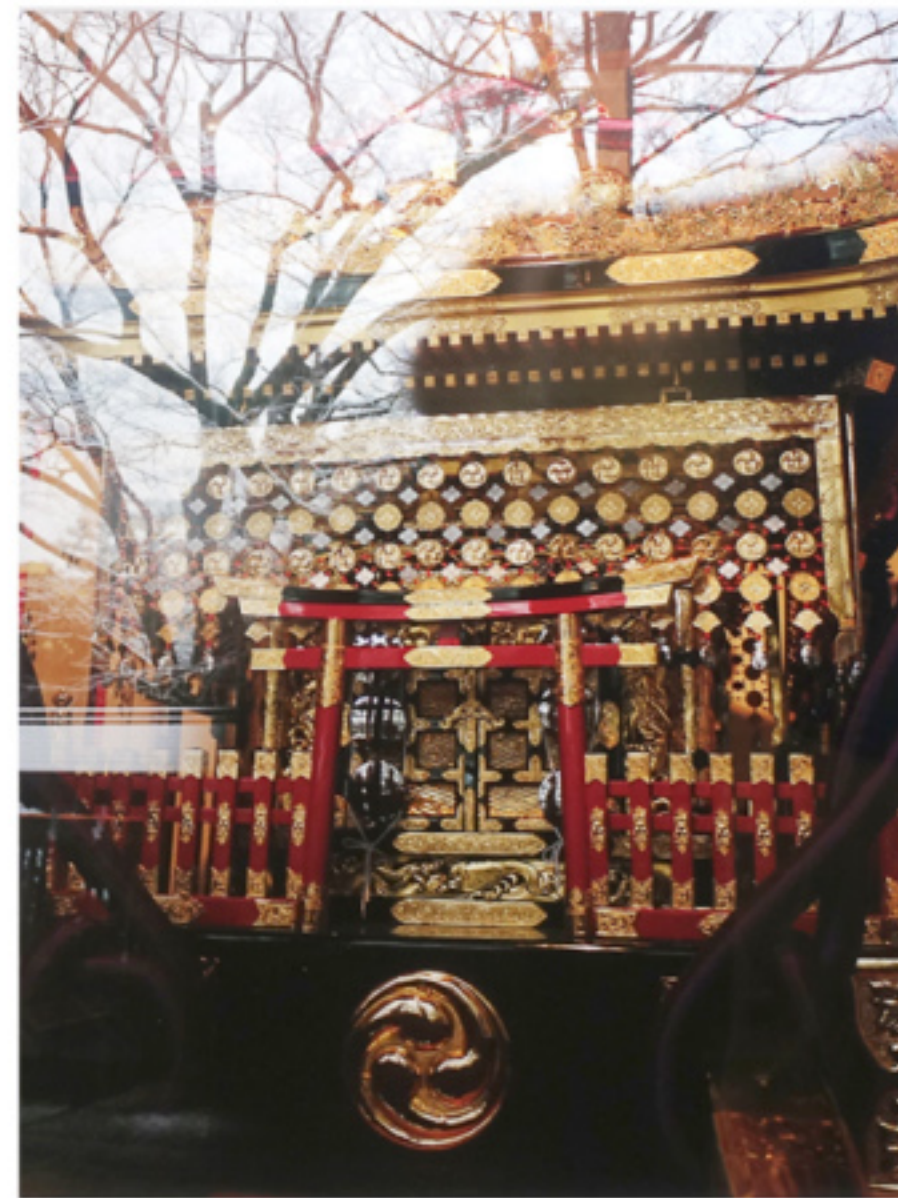
吾輩は猫である 名前は、まー（くん）と呼ばれている。この家に来て16年。人間的にはもう”じいさん”である。家族は5人。毎日人間を観察するのが面白い。猫可愛がりされているのは、はなはだ迷惑である。幸か？不幸か？わからないが、今のところ毎日が平和である。ありがたい。ありがたい。

白石ちとせ 「ある日 吾輩は猫である」



コンパクトデジカメによる私の日常の記録も早6年目を過ぎた。2011年3月、原発の惨状を刻一刻テレビのニュース速報で伝える作業服姿の枝野官房長官が「直ちにどうということはない！」と言え言うほど「これは何かとてつもない大変なことが起きている」と直感し、テレビ画面を夢中で撮影したことからそれは始まっている。とにかく日常の中で目に飛び込んでくる様々な事物を何でも肉眼の延長で撮って行こうと決めたのであった。そろそろ息切れしてマンネリ化が見えてきたところで終了してこれを漫画の単行本のようにまとめてと考えている。私の密かな老後日記である。

神保君雄 「老後毎日」



堰合雪江 「雪の船橋大神宮」



海外の出張では愛用のコンデジカメラを持参します。ゆっくり街並みをスナップする時間がなく、レストランでの食事のシーンを狙って撮るようにしています。雰囲気のあるバーのドア越しに映った店員、店内にたくさん並べてあったワインボトルの陰影、強い光が日よけ越しに店内の客に当たっている・・・すべて一瞬でしたが、撮りたい気持ちに任せてシャッターを切りました。

妹尾 篤 「異国にて ～思い出のレストランテ～」



田口孝直 「ゆっくりとした時間」



樹木には年齢があります。それは、その樹が厳しい寒さに耐えたり豊かな太陽や雨に恵まれた歴史の跡です。それは、その樹が生きてきた証です。その足跡です。他に、恐竜の化石等がそうでしょう。そんな大きく長い話でなくても、私たちの足元には多くの痕跡があります。それは、間違いなく人間の営みの痕跡です。考古学とまではゆきませんが、足跡学ですか。そこに、人間が見えるのです。それを表現したいと足搔いています。

田口順一 「痕跡学」



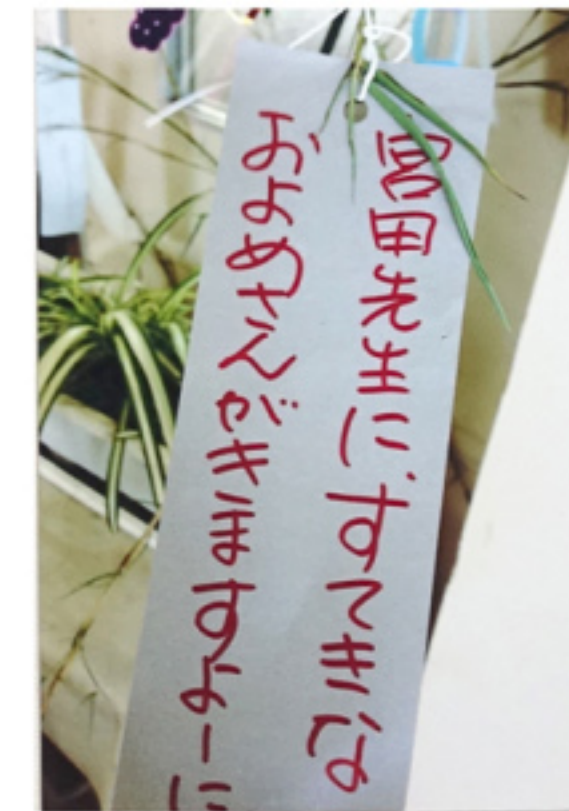
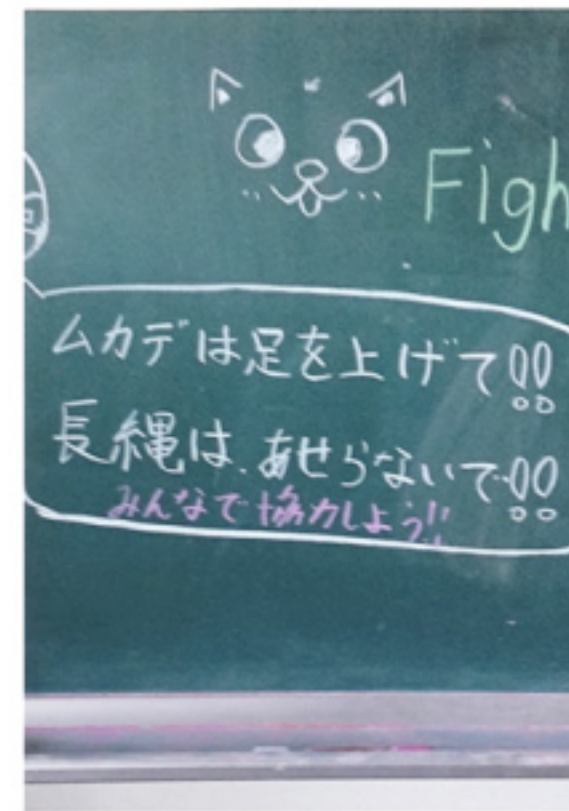
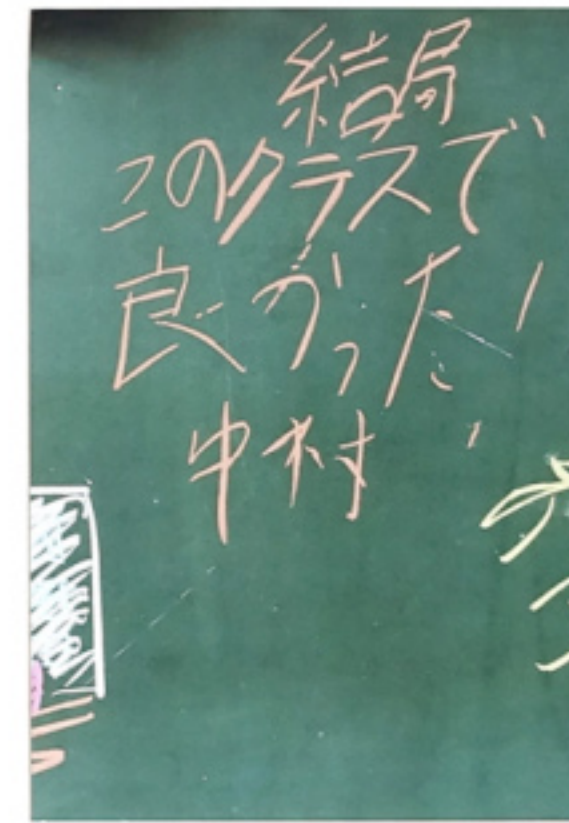
少し落ち込んでいた日 北八ヶ岳の森にて撮影しました 元気になってから再び訪れた・・・
ミエルノカ？ ワタシノ姿ガ キコエルノカ？ ワタシノ声ガ

竹下めぐみ 「もののけの森」



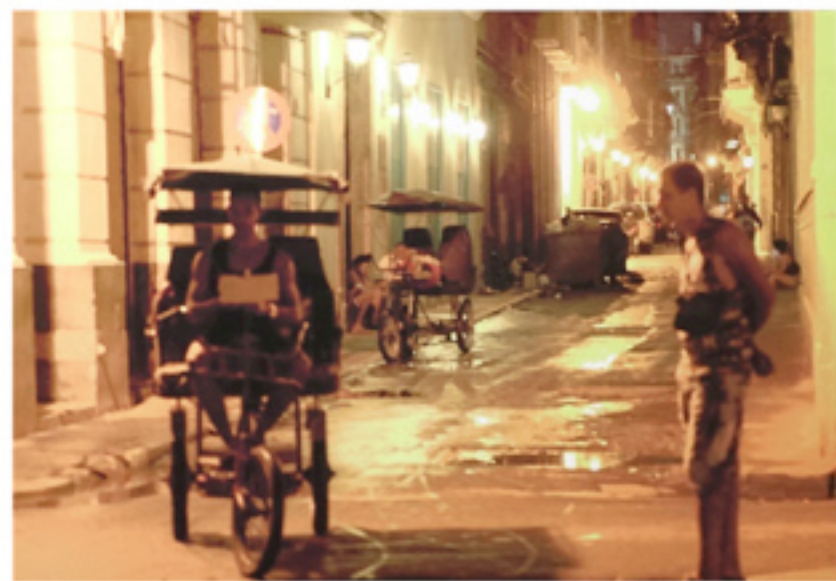
ここは船橋のららぽーとの横。船橋競馬場に隣接する厩舎地区です。
ここにはレースを走る、お馬さんやそのお馬さんの、お世話をするいわゆる厩務員さん
たちが暮らしていますが、、、 ここには、、、、 猫もたくさんいるのです。

津乗健太 「船橋競馬場厩舎地区の猫たち」

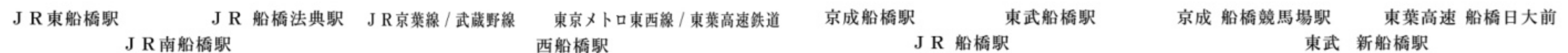


時間を見つけては黒板に落書きをする生徒。すると先生がやってきて「だれだあ。黒板に落書きをしたのは・・・?」と言。みんな黒板を見てニヤニヤしている。すると教科リーダーがやってきて、サーッと消し始める。その間、ものの数十秒だろうか? ほのほの・・・するひとときでもある。どんなに上手く書けていてもやがて消されてしまう・・・落書き。「この子は、幸せいっぱいなんだろうな」・・・とか、「クラスみんなに伝えたい気持ちがあるんだな」・・・とか、時には「怒りのメッセージ」もある・・・。たわいもない落書きではあるけれど、言葉に出せない気持ちやメッセージを、見る人に伝えようとしている。そこには、「言葉」では言い表せないメッセージが込められている。『たかが落書き、されど落書き・・・』である。

徳永秀明 「落書き」 市内中学校



富川謙司 「ゆっくり進む時間 ～12月のキューバ～」



中川迪生 「船橋名のつく駅」づくし



中村洋代 「色褪せる時間」



中山清子 「早春」



並木幸子 「ストリート」



福士留男 「追憶、京成沿線」



古川香衣子 「行きつけの店」

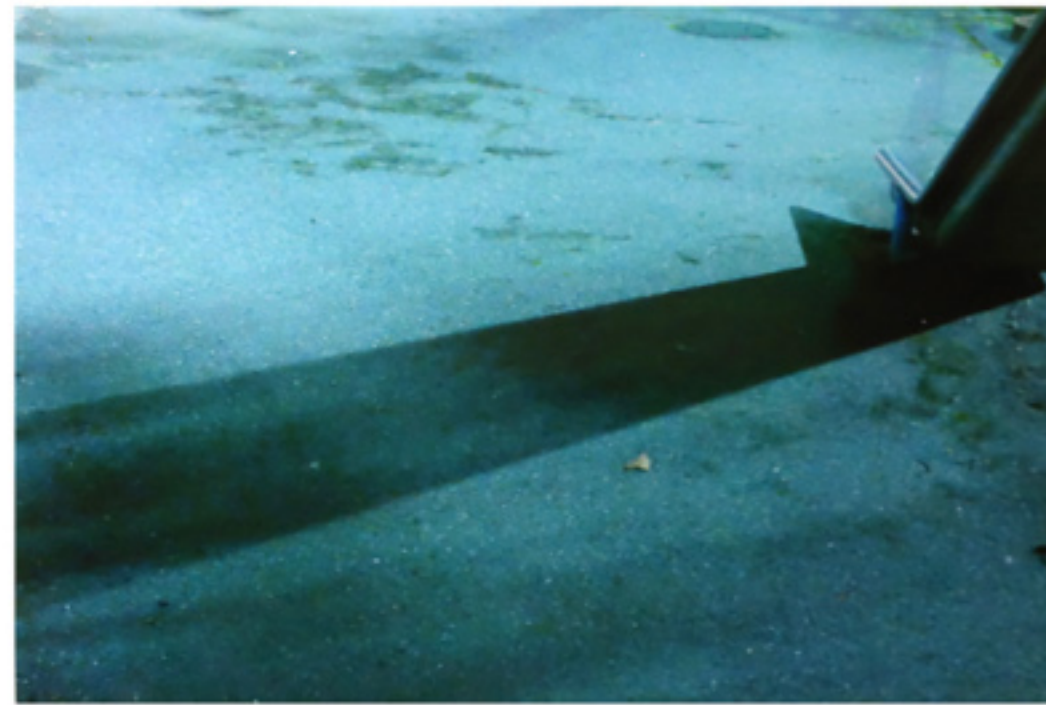


堀 宏一 「おとぎばなし」



3.11直後と6年目の久ノ浜の情景です。3年前頃から復興の兆も進展しつつあり現在住民との会話に笑いが見掛けられるようになりました。

水田富江 「震災より6年目の久ノ浜」



村田ふじ子 「迷い道」



持地慶輔 「空は青」



大内宿 会津と日光を結ぶ街道の宿場として、江戸時代には参勤交代の大名行列や旅人で賑わった。現在も約30件の茅葺きの民家が並んでいる。
 湯之上温泉 会津若松駅から会津鉄道で約40分、全国初の茅葺き屋根のレトロな駅舎で、待合室には囲炉裏がある。

山岡喜保 「会津西街道宿場光景」

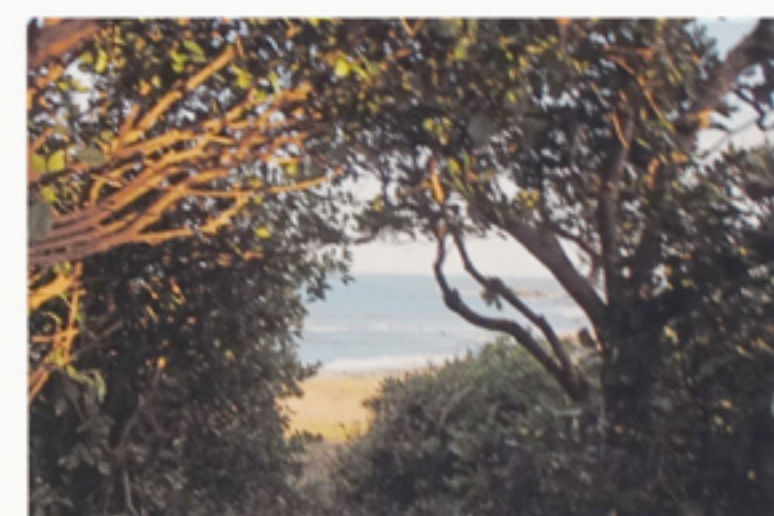


山崎和雄 「夜間日記」



12年に一度約100隻の船が大橋川と意宇川を舞台に繰り広げる、豪華絢爛大船行列「ホーラーエンヤ」。360年の歴史を有す松江城山稲荷神社式年神幸祭の通称で、古くから宮島管絃祭大阪天満宮の天神祭と並び日本三大大船神事の一つで水郷松江が誇る全国最大級の船祭りです。威勢のいい「ホーラーエンヤ」の唄声に整然と揃う櫂さばき舳先で威風堂々見得を切る歌舞伎姿の剣櫂、艫で艶めかしく身をくねらせる女装の采振りと空前絶後の一大絵巻が繰り広げられます。

湯原信幸 「ホーラーエンヤ（松江）」



吉澤俊一「岬巡り」



渡辺志穂 「青色青光 しょうしきしょうこう」



松戸 徹 「音のない記憶」



林 誠治 「行田団地 5 0 4 号室より」

写真集



田口順一「秘境 相山郷」



清水朗子「入笠湿原 入笠山ハイキング」



清水朗子「SKY&LINE」



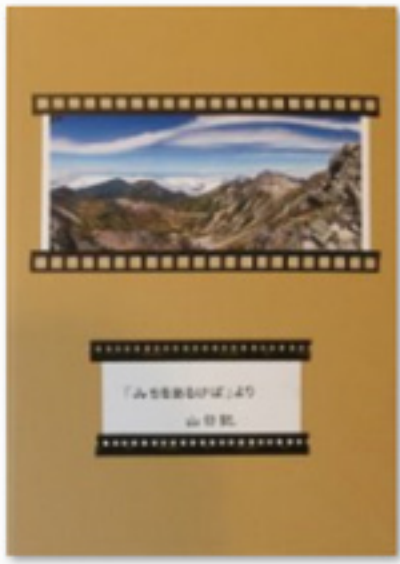
永幡幸光「団地のポートレート」



田口順一「音楽」



木村ハル「裏庭」



竹下めぐみ「みちをあるけば」より 山日記



阿部幹子「閑上」を訪ねて



神保君雄「家の日々」



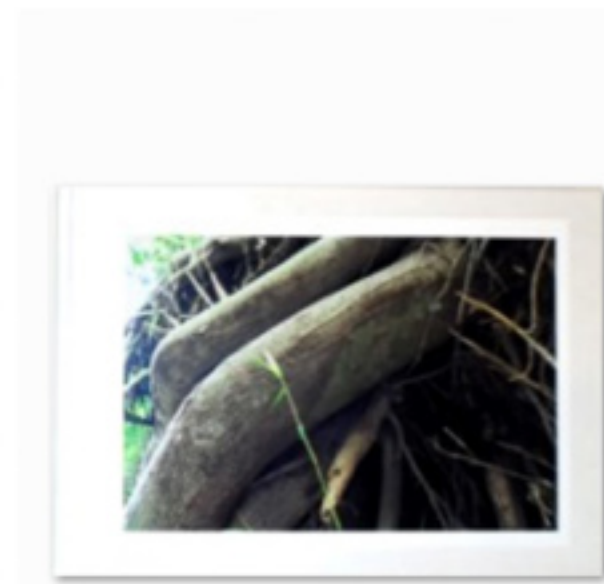
加藤久雄「とおりぬけみち」



竹下めぐみ「もののけの森 ふたたび」



佐藤啓三「田舎一人暮らし」



田口順一「Prelude 前奏曲」



津乗健太「楽しくなさそうにはしていない猫」



田口順一「日本橋駅」



釘宮和博「公園 - グラスボ」初雪



木村ハル「裏庭に家を建てる」



釘宮和博「100年 - 時間旅行 桜の木の下で」



久保田マリア「新幹線通勤」



田口順一「街路樹」



加藤久雄「森の霊園」



加藤久雄「ALBUM」



田口順一「すみれ&咲」



作田龍顕「ベランダものがたり」



佐藤 昭「鉄塔」

